

平成 29 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月成魚調査 速報

●実施状況

5 月 11 日の成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。調査当日は大潮で満潮 4 時 38 分、干潮 11 時 18 分（東京都港湾局のデータ）であった。当日の調査時間帯の波高は、静穏から 0.3m であった。また、St. 25 では赤潮が確認され、それ以外の地点も赤潮気味であった。千葉側の St. 10、St. 22 の底層は貧酸素傾向で魚類が少なかったのに対し、東京側の St. 25、St. 35 は貧酸素化しておらず、魚類が多い傾向にあった。

調査地点	St. 10		St. 22		St. 25		St. 35	
調査時間帯	13:10~14:05		12:00~13:05		10:40~11:35		09:05~10:20	
水深(m)	8.6		13.6		15.8		25.3	
天候	晴れ		晴れ		晴れ		快晴	
気温	21.8		22.8		20.6		19.4	
風向/風速(m/s)	S/5.4		S/4.1		S/2.5		S/1.4	
波浪(m)	0.3		0.3		<0.1		0.2	
水色	緑褐色		緑褐色		茶褐色		緑褐色	
透明度(m)	1.2		1.1		0.9		1.8	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	21.1	16.2	21.8	14.6	19.9	14.6	19.1	14.6
塩分	26.7	32.6	23.3	33.6	23.5	33.9	26.3	34.1
pH	8.6	7.8	8.6	7.6	8.6	7.8	9.0	8.1
DO(mg/L)	15.1	2.8	13.1	1.6	13.2	3.9	12.5	5.3
臭気	無し	無し	無し	無し	無し	無し	弱下水臭	無し
備考	赤潮気味		赤潮気味 下層は貧酸素		赤潮		赤潮気味	

観測層：上層(0m)・下層(海底面-1m)

●主な出現種等(速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	St. 10	St. 22	St. 25	St. 35
魚種 (多い順 ^注)	ハタタテヌメリ (+)	ハタタテヌメリ (r)	ハタタテヌメリ (r)	ハタタテヌメリ (c)
		マコガレイ (r)	マコガレイ (r)	マコガレイ (r)
			テンジクダイ (r)	
魚類以外	ホンビノスガイ (c)	スナヒトデ (c)	スナヒトデ (+)	ケブカエンコウガニ (c)
	イッカククモガニ (c)	ケブカエンコウガニ (c)	ケブカエンコウガニ (+)	スナヒトデ (+)
	トリガイ (+)	タイラギ (r)	トリガイ (r)	トリガイ (+)
備考				1 回目はクラゲのみ

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+ :5-20 個体未満、r:5 個体未満

St. 10 調査地点位置

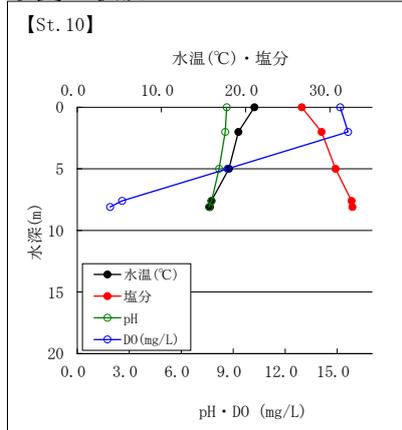


ディズニーランドの岸寄りに位置する。ハタタテヌメリのほか、ホンビノスガイ、トリガイ、サルボウガイ、イッカクモガニ、スナヒトデ、エビジャコ属等が確認された。付近は表層の溶存酸素量が多く、赤潮気味であった。一方、下層は溶存酸素量が少なく貧酸素状態に近かった。

採取試料



水質の状況



砂泥底に多く生息する小型のエビ類。砂に潜って隠れる。体色は周囲の環境により変化する。



北米大陸西部沿岸原産の外来種。内湾の砂泥底に生息するカニで、東京湾奥部に多く生息する。貧酸素に比較的強く、優占種となることが多い。



内湾の砂泥底に生息する。稚貝は海藻などに付着して成長する。成長に伴い、海底に生息場所を移す。



今では東京湾にすっかり定着しているが、もともと北米原産の外来の二枚貝である。貧酸素にも比較的強い。

St. 22 調査地点位置

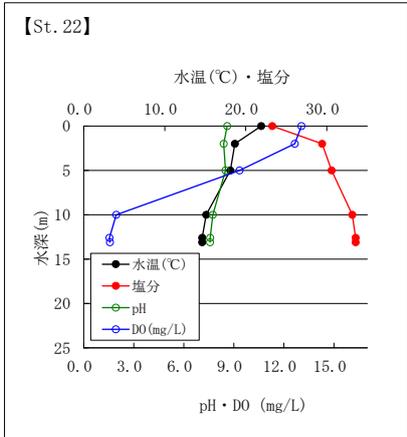


ディズニーランドの約3km沖合に位置する。マコガレイ、ハタタテヌメリのほか、サメハダヘイケガニ、ケブカエンコウガニ、タイラギ、トリガイ、スナヒトデ等が確認された。付近は表層の溶存酸素量が多く赤潮気味であったが、下層は貧酸素状態であった。

採取試料



水質の状況



東京湾奥部の底生性魚類の代表種。最大10cm程度の小型種だが、貧酸素にも比較的強い。



砂泥底に生息する大型のヒトデ。海底の小動物や小型の貝類を捕食する。移動速度は速く、砂泥上をすべるように移動する。



砂泥底に生息する小型のカニ。2対の脚が小さく、カギ状になっており、二枚貝の貝殻を背負う。



やわらかい毛で覆われており、泥が付着していることが多い。東京湾では十数年前から増加しているようである。

St. 25 調査地点位置

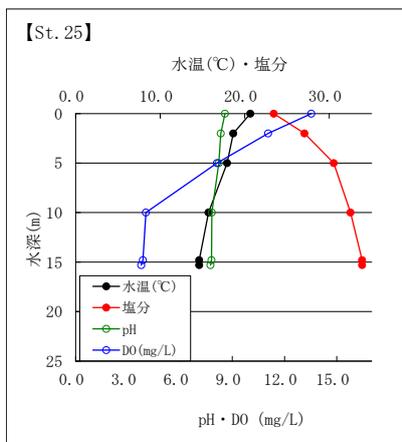


羽田空港の北東に位置する。マコガレイ、ハタタテヌメリ、テンジクダイのほか、トリガイ、ケブカエンコウガニ、キセワタガイ、多毛類等が確認された。透明度は 0.9m、茶褐色を呈しており、赤潮であった。

採取試料



水質の状況



テンジクダイ
東京湾の砂泥底に多く生息するが、内湾奥部には少ない。親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。



トリガイ
東京湾において重要な漁業対象種となっている。秋に着底した稚貝が5月に殻長60mmに成長し漁獲される。



キセワタガイ
水深 30m までの砂泥底に多く生息する。巻貝の仲間だが、殻は小さく体の中に埋没している。小型の貝類などを捕食している。



多毛類
複数種混在しているが、オウギゴカイが多いと思われる。春の産卵期には、水面まで浮上する。

St. 35

調査地点位置

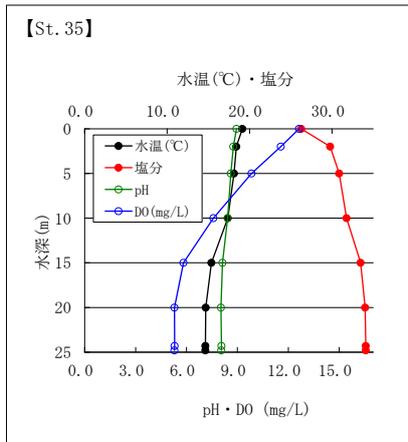


東京湾横断道の川崎人工島（風の塔）の北東に位置する。最大 18cm のマコガレイ、ハタタテヌメリのほか、シャコ、サルエビ、トリガイ、タイラギ、ケブカエンコウガニ等が確認された。付近は表層の溶存酸素が高く、赤潮気味であった。

採取試料



水質の状況



今回の調査において捕獲された最大個体。2~3歳だと思われる。マコガレイは2~3年で成熟し、産卵に加入すると言われている。



内湾の砂泥底に生息し、東京湾でも最も普通に見られる小型のエビである。寿命は1年程度である。



内湾の砂泥底に穴を掘って生活している。東京湾では重要な漁業種となっているが、資源量はなかなか回復しない。



寿命は6~7年と言われているが、東京湾では貧酸素により、1年未満で死んでしまう個体が多いようである。